



カモナスちゃん

# 上賀茂社協だより

ふくしかわらばん第28号 平成24年3月5日 上賀茂社会福祉協議会

## 社協今年度の取組から 子ども達と一緒に、大人も学ぼう 上賀茂学区における「福祉教育」の授業づくり

～上賀茂小学校4年生の子ども達と共に～

上賀茂小学校 + 上賀茂学区社会福祉協議会

今年度、上賀茂社協では、「福祉教育」を新事業として、担当チームを結成し、上賀茂小学校4年生を対象に、総合学習の時間に、上賀茂社協がパイプ役となって、学校と福祉関係機関との連携を取って、一年間を通したテーマを基に「福祉教育」の授業づくりを進めてきました。以下が4年生担任の先生方と話し合っただけで決定した「福祉教育」事業の趣旨と年間計画です。

### 1<趣旨>

- ・子ども達の「福祉」に関する教育の充実と理解、行動を進める取組を行う。
- (1)体験を通して「福祉」の意味と理解を深める。
- (2)福祉活動に参加する事を通して、社会、地域、人への貢献、ボランティア活動の重要性を伝える。
- (3)地域に住む一人として、高齢者や障害者、外国の方々等、様々な人達と暮らす「支えあう地域づくり」の理解を深める。

### 2<重点>

・「知る」ことを目的化せず、「知る」ことから「考え」具体的「行動」に移すことを目的とする。

### 3<上賀茂小学校4年生総合学習の授業>

(テーマ)「バリアフリーとは何か。上賀茂の町は、だれもが住みやすいやさしい町だろうか。」

#### (年間計画)

- (1)第一回 視覚障害について 10/ 7
- (2)第二回 聴覚障害について 11/ 1
- (3)第三回 身体障害と介護犬について 11/21
- (4)第四回 地域福祉について 12/19
- (5)第五回 高齢者福祉について(交流)
- (6)第六回 一年間のまとめ

・テーマに沿って、上賀茂の町はだれもが住みやすい町だろうか、まとめる。そして、地域の一人として、今の自分たちにできることは何かを考える。

### <実践報告1 10月7日(金)>

#### ☆第一回目 視覚障害について学ぶ

◇講師：渡邊 昭一先生

京都市北区身体障害者団体連合会会長  
府視覚障害者協会北支部会員  
京都ライトハウス勤務

子どもたちは、事前に国語の「手と心で読む」という単元を学び、実際に点字を打つまでの学習をしました。渡邊先生は身近な問題から、東北の大震災を題材に緊急事態の際、視覚障害者にとって何が必要か、どうした手助けが必要か、子どもたちに分かりやすくお話していただきました。

緊急時に最も必要なこと。それは、「時間」を知ること。そして、「情報」得ること。そのために「ラジオ」は視覚障害にとって何より必要であることを話されました。

また、自分の日常生活を基に、ユニバーサルデザインについてのお話や白杖の使い方、暮らしの中で必要な支えについてお話していただき、子ども達も熱心にメモを取り、お話を聞きました。子ども達は事前学習の中で学んだ点字を使って、渡邊先生に自己紹介文を書いていました、果たして先生に通じるのかどうか心配の様子でしたが、渡邊先生が、一つ一つ手で読み上げて下さる度に



歓声があがり、点字が通じた喜びを感じているようでした。

最後の話し合いでは、子ども達の手がたくさん上がり、日常生活の

仕方、困ることはどんなことか、どんな手助けが必要かなど、自分達にできることは何かを確認しながら、熱心に聞いていました。

印象的だったのは、「もし、目が見えるようになったら、どんなことがしたいですか?」との質問に渡邊先生が「本をいっぱい読みたいです。」と答えられたことでした。自分達にとって「あたり前」であることが、あたり前でない人達がいる。ならば、どうすればいいのか。子ども達の胸に何かを残したやりとりでした。

今回、授業づくりを進めるにあたって、担任の先生方とも確認し合ったことは、「知る」ことを最終の目的としないこと。「知る」ことから「考え」そして、何ができるのか具体的に「行動」すること。それを最終の目的にしました。今回の授業は、子ども達にたくさんのヒントが与えられたのではないかと

と思います。子ども達は、最初から最後まで、集中力の途切れる様子もなく、本当に熱心に学んでくれました。

## 《実践報告2 11月1日(火)》

### ☆第二回目 聴覚障害について学ぶ

◇講師：福村 賢二先生（京都市聴覚障害者北支部長）手話通訳 藤木さん

授業は、聴覚障害者である福村先生が手話でお

手話でのお話を聞く子ども達



話をされ、手話通訳でお話をもう一度聞くという方法で進められました。

福村先生は、幼い頃の不慮の事故で聴覚を失ったこと、小学校に入学

したが、先生の話が聞き取れず、再度、聾学校に入学されたお話をされました。

聾学校では、話し手の喉に手をあてて、その振動から発声方法を学んだことや、話し手の口の動きを見て「あ・い・う・え・お」をまず学び、そして言葉を学んだことを話されました。

口の動きによって相手の話を聞く際、「はし」などの同音異義語の多い言葉や「たまご」「たばこ」などの類似した言葉などは、大変読み取りにくいことを説明されました。

災害などの緊急事態については、阪神大震災の際、家族の助けを求める声が聞こえない為に助けができず、家族を亡くされた友人のお話を例に挙げ、聴覚障害者やその家族は、普段の日常生活の中で隣近所の方々に、その存在を知っておいてもらうことが大切だと話されました。また、非常ベルや緊急事態を告げるアナウンスがあっても聞きとることができないので、点滅ライトや文字表示を併設することは、聴覚障害者にとって大変重要であることも話されました。

そして、日常生活においては、聴覚障害者は外見では判断できない「見えない障害者」である為に、言葉をかけても返事をしないなど、コミュニケーションの行き違いを生みやすく、誤解されることも多いことや背後から車のクラクションを鳴らされても察知できず、危険な目に合うことが多いこと、同じ意味で、歩道上での自転車との接触事故が大変多いことなども話されました。

子ども達は、この授業でも、前回同様、自分が理解していた「あたり前」について、もう一度深く考える機会を持てたのではないかと思います。

そして「もし自分がそうであったなら」と想像力を働かせること、その上で行動すること。このことは、私達大人も、社会も、大いに欠落しだした部分でもあり、子ども達のみならず、私達自身も、もう一度身につけなければならない大切な点であるように思われました。

## 《実践報告3. 11月21日(月)》

### ☆第三回目 身体障害&介助犬について学ぶ

◇講師：京都ケアドッグステーション

車いす体験、その後、介助犬と身体障害者の介助について、子供たちは午前中いっぱい学びました。

#### ・車いす体験

この学習の重点は、車いすに乗る人も介助する人も、「もし、自分がそうであったら」と想像しながら体験することでした。街に出ればどれ程多くの障害物があるのか。普段何気なく過ごしていることを今一度、体の不自由な人の身になって見つめ直す、大切な時間でした。「車いすに乗って押してもらおうと楽しんでいたけど、とっても不安でこわかった。」子ども達の素直な感想でした。

12月には、子ども達は上賀茂の街へ出て、「誰もが住みやすい街だろうか？」をテーマに探検します。その上で、この体験が役に立つと思いました。

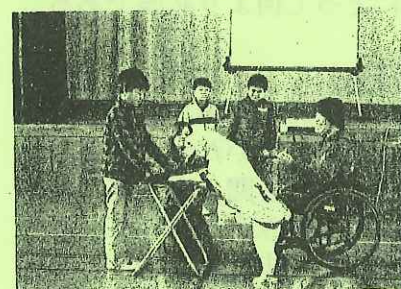
#### ・介助犬についての学習

京都ケアドッグステーションの指導員の方から、「介助犬ってなんだろう」といことを教えて頂きました。視覚障害者に対する盲導犬、聴覚障害者に対する聴導犬、手足に障害のある人に対して介助犬。たくさんのトレーニングを積みながら、障害者の助けになる為に働く補助犬



介助犬に指示を出し並走する

達がいることを知りました。その後、介助犬がどんな仕事をしているのかを実演を交えながら教えて頂きました。障害者にとって、介助犬は生活の助けになるだけではなく、安らぎや外に出る勇気を与える存在であることを、一所懸命働く犬の姿を見て、子ども達もより強く感じたことと思います。最後に指導員さんは、「障害者と補助犬を見かけたら、それで大丈夫と思わないで、できる手助けをしてあげてください。皆さん一人一人が、障害者に手を差し伸べてくれたら、もしかしたら補助犬達はいらなくなるかもしれません。何より大切なのは、人の思いやりと支えあい。どうか、皆さんもできることをしてください。」とおっしゃいました。子ども達ばかりでな



お店の店員になり介助犬の仕事を理解する

く、私達大人も重く受け止めなければならぬ言葉でした。たくさんの方々のご協力を得て、また一つ大切なことを学べた授業でもありました。ありがとうございました。